

背景・目的

- ・センサーやAIカメラ、スマホアプリなど、新技術や新たなデータの登場により、より早く、細かくまちの変化が捉えられるように。複雑・多様に変化する都市課題や人々のニーズに対して、新たなデータを活用することによって、よりの確で機動的なまちづくりが可能に。
- ・一方で、新たなデータを活用したまちづくりが全国各地で進められる中、取組方法などのノウハウが不足。

[新たなデータの例]

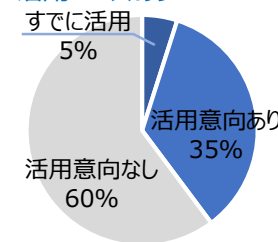
| | | | | | | | |
|-----------|-----------------|-----------|-------------|-----------|--------|-----------|---------|
| 人流 | スマホアプリの位置情報、 | 土地 | 衛星、BIM/CIM、 | 消費 | POS、 | 防災 | 水位センサー、 |
| 交通 | AIカメラ・センサー、交通IC | 建物 | 3D都市モデル | 経済 | 地域ポイント | 環境 | SNS |

多くの市町村や民間事業者に向けて、**新たなデータを活用したまちづくりの取組の意義、考え方、留意点 = "ヒント"**や、**全国の取組の"事例"**をわかりやすく解説

[参考] 市区町村の実態調査結果 n=1727

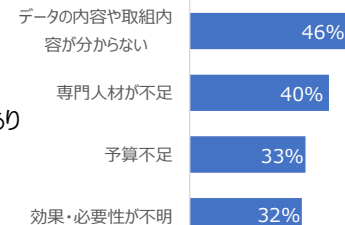
新たなデータの活用状況

約4割の市区町村が、まちづくりへの新たなデータの活用ニーズあり



データ活用の課題

多くの自治体でノウハウが不足



第1部 データを活用したまちづくりのヒント

第1部では、準備段階での考え方、まちづくりの段階別の考え方、官民連携やデータ管理等の留意点などを紹介。

●まちづくりへのデータ活用に向けた準備

必要なデータの検討方法、データの取得方法、全国的なオープンデータの紹介など

●段階別でのデータ活用のまちづくりの取組

1 計画・整備段階

計画検討の高度化・深度化

周期調査等と組み合わせ、課題の詳細な把握や、施策の鮮明化など、計画検討の高度化・深度化を目指す



防災まちづくり (リゼTJ隣駅の3D表示)

2 利活用段階

都市サービスの展開

市民ニーズや都市活動状況のデータを把握することで、まちなかでの賑わいづくりなど、市民生活を豊かにする都市サービスの充実化を図る

3 モニタリング・評価段階

的確かつ迅速な評価

施策・事業効果をより直接的かつ迅速に計測でき、適切な施策の見直しに活用可能

●データを活用したまちづくりの推進に向けた留意点

官民データ連携の方法

まちづくりの担い手

データ活用への市民参加

パーソナルデータの取り扱い

第2部 データを活用したまちづくりの事例

第2部では、「取組分野」別でのデータを活用したまちづくりの事例や、分析事例を紹介。具体的には、まちづくりに活用するデータについて「取得・管理」、「分析」、「活用」ごとに、実施主体・体制や方法、費用などの事例の詳細を紹介。

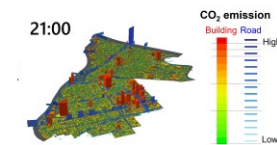
まちづくりのテーマ例

該当自治体等

| | |
|-----------|---------------|
| ウォーカブル | 岡崎市、札幌市、松山市、他 |
| エリアマネジメント | 新潟市、尼崎市、品川区 |
| モビリティ | さいたま市、岐阜市 |
| コンパクトシティ | 富山市、藤枝市 |
| 観光振興 | 豊岡市、藤沢市 |
| 滞留・密対策 | 岡崎市、千代田区 |
| 防災 | 千代田区、豊島区 |
| ゼロカーボン | 国立環境研究所 |
| インフラ維持管理 | 柏市 |



歩行者流動・軌跡の可視化



時間別都市炭素マッピング

+ 紹介しているデータの例

センサー・AIカメラ・交通IC・スマホアプリによる**人流データ**、POS・地域ポイントによる**消費データ**、センサーによる**防災データ** など